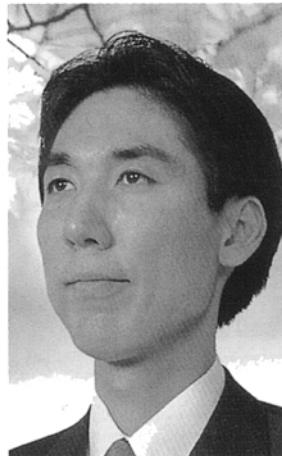


城内 実の視点！ 時代を考察する(13)

—党利党略型から
共存共榮型政治に転換せよ—



前衆議院議員・拓殖大学客員教授 **城内 実**

道路特定財源問題で揮発油税（ガソリン税）の暫定税率を今年の四月以降も維持するのかそれとも廃止ないし低減するのかをめぐつて与野党の攻防が続いている（三月中旬現在）。また、三月十九日に任期が切れる日本銀行の総裁人事についても、武藤敏郎副総裁の昇格案を民主党が拒否しており、日銀総裁人事が頓挫したままだ。十年間で五十九兆円を道路整備に投じる道路整備中期計画に対しては、国民から厳しい批判がなされている。しかも、道路特定財源が道路とは全く無関係の職員の旅行費、ミュージカル公演費、カラオケセットなどに使われていたこともあとで分かった。ここまでくると、国民の怒りは爆発寸前である。

また、サブプライムローンなどをめぐつて世界金融市場が未だに大きく揺れているときに、日銀総裁が空席のままというようなことが果たして許されて良いのであろうか。

こういった国内の政治情勢をみると、そろそろ新しい政界浄化の動きが起きておかしくないと考える。自民党は、既得権益を守るのに汲々としているし、また民主党は自民党の足を引っ張ることに腐心しているだけである。どちら

らも党利党略優先で見苦しい。とても国民の理解を得られているとは思えない。

ここにきて多くの国民は日本の政党政治の限界を感じるようになった。時事通信社の三月の世論調査では、福田内閣の支持率が下がつて政権誕生以来最低となり（三〇・六%）、自民党的支持率も先月からさらに下がつた（二三・〇→二一・八%）。特筆すべきはなんと「政権交代」を声高に叫んでいる民主党の支持率までもが下がり（一五・一%→十三・六%）、その反面「支持政党なし」が増加していることだ（五五・九↓五六・五%）。これはどういうことかというと、「自民党を政権の座からひきずりおろして、とりあえず民主党に政権を任せよう」と考えている人よりも、「やはり民主党にはこわくて政権を任せられない」という人の方が多いことを物語っている。自民党、民主党を含めて国民の間に政治不信が広がっている証左だ。

政府や政権与党「大本営」の発表によると、今の日本の経済は、「いざなぎ景気をこえる、戦後最長の景気拡大」とのことだが、株価は低迷し、個人消費は伸びず、国民一人当たりのGDPの国際順位もどんどん下がっている。彼らは

一般国民や中小零細企業の経営者たちの声を聞いたことがあるのだろうか。

なぜ日本経済はこれほどまでにだめになつたのか。それは、簡単である。構造カイカク路線という、理念なき経済政策のせいである。

私は小泉・竹中構造カイカク路線のことを、「カイカク真理教」、「カイカク原理主義」と名付けたが、構造カイカク路線は、国民を幸福にするどころか、地方を切り捨て、国民の間に格差や、年間三万人にも及ぶ自殺者を生んだ。すでにこの連載でも取り上げたように、構造カイカク路線の一部は、アメリカの要求する年次改革要望書に基づくものであつた。グローバリゼーションの名の下で郵政民営化と同時に、医療制度改革や司法改革、会社法の改正（＝改悪）による外資による敵対的買収が進められている。

いつたい誰のための改革なのか。たつた一握りのカイカク利権屋のための改革で良いのだろうか。小泉・竹中構造カイカク路線の申し子であるライブドアの堀江貴文と村上フアンの村上世彰の残した教訓は大きい。それは、日本の国柄を無視した、カネ儲け中心の理念なき経済政策ではだめだということを明らかにしたことである。

先の大戦に負けたせいか、戦後の日本人はやたらと怪しい横文字に弱い。「グローバリゼーション」や「ファンダ」など、本来の日本人にとっては意味不明の安っぽい概念の前に、「何かすごそうだ」とか、「時代の潮流を感じ」てしまい、「バスに乗り遅れるな」となつて、知らず知らず沈みゆく船に乗つかってしまうのである。

それでは、日本の国柄とは何か。それは、農耕民族として小さな共同体でお互いが助け合い、共存共榮することである。言い換えれば、「和の精神」を大事にし、共生を旨とする社会である。

「勝ち組、負け組」ではなく一人でも多くの「しあわせ組」を作ることが本来の日本人のあるべき姿なのである。

こうした「和の精神」は決して特殊なものではなく、むしろ紛争が絶えず、弱肉強食型の国際社会にあって日本が率先して普及すべき普遍的な価値である。現にヨーロッパでは、歐州連合の誕生により、日本のお家芸である「共存共榮」、「和の精神」が、ユーロというドルに迫る基軸通貨の発行により先取りされてしまった。

本当に国民の目線に合った血の通つた改革を行ふためには、われわれのご先祖様が嘗々と汗

と涙で築いてきたさまざまな努力の成果に思いをいたすことが大切である。それと同時に、一部の勢力の思惑にだまされないようにし、将来の日本人ひいては地球人類の「万民幸福」を実現するような大胆な改革を行うべきであろう。政党同士が党利党略で争つている場合ではないのである。

プロフィール

城内 実（きうち みのる）

昭和四〇年 四月一九日生まれ

平成元年 東京大学教養学部国際関係論分科を卒業し、外務省に入省

平成二年 在ドイツ日本大使館勤務

平成九年 天皇陛下、総理等のドイツ語通訳官

平成一四年 外務省を退官し、公募に応募

平成一五年 衆議院議員初当選（無所属）

平成一六年 党改革実行本部幹事

平成一七年 農林水産委員会委員、環境委員会委員、第四十四回衆議院選挙にて七四八票差

平成一七年 第四十四回衆議院選挙にて七四八票差で惜敗

平成一八年 拓殖大学客員教授

城内 実 ホームページアドレス
<http://www.m-kiuchi.com/>